

# 階上地区津波避難計画

地区津波避難計画は、防潮堤等が完成するまでの現状で、東北地方太平洋沖地震津波と同規模の津波があった場合でも安全に津波からの避難が可能となるよう定めるものです。

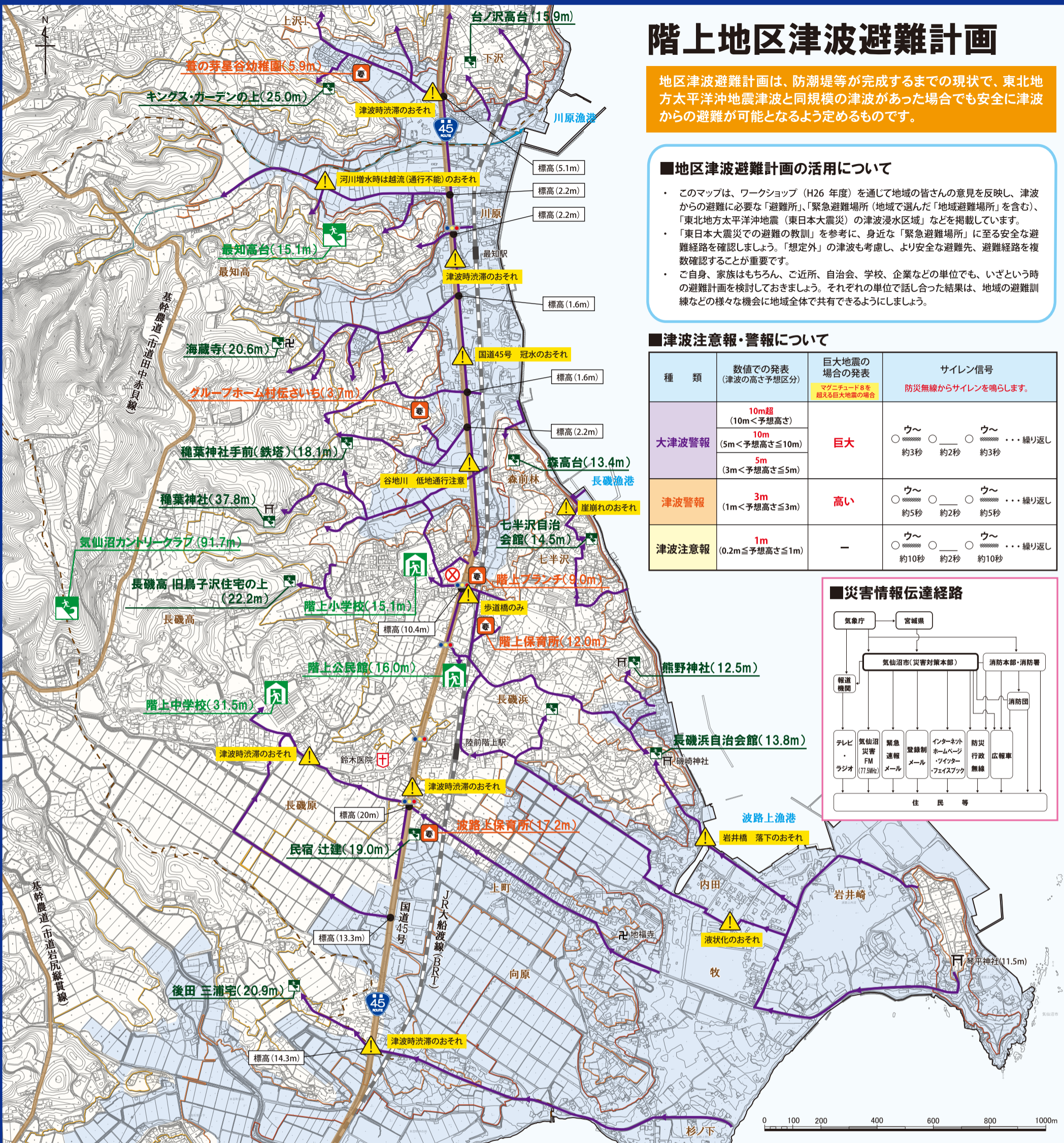
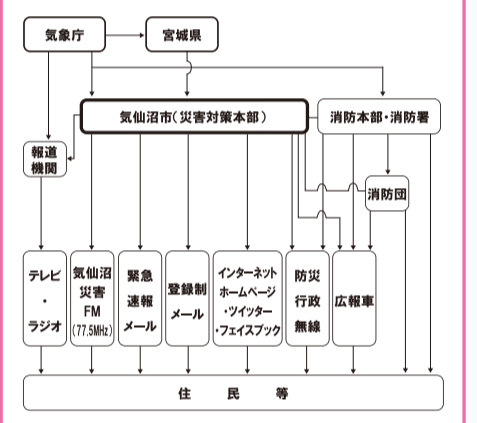
## ■地区津波避難計画の活用について

- このマップは、ワークショップ（H26年度）を通じて地域の皆さんの意見を反映し、津波からの避難に必要な「避難所」「緊急避難場所（地域で選んだ「地域避難場所」を含む）」「東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の津波浸水区域」などを掲載しています。
- 「東日本大震災での避難の教訓」を参考に、身近な「緊急避難場所」に至る安全な避難経路を確認しましょう。「想定外」の津波も考慮し、より安全な避難先、避難経路を複数確認することが重要です。
- ご自身、家族はもちろん、ご近所、自治会、学校、企業などの単位でも、いざという時の避難計画を検討しておきましょう。それぞれの単位で話し合った結果は、地域の避難訓練などの様々な機会に地域全体で共有できるようにしましょう。

## ■津波注意報・警報について

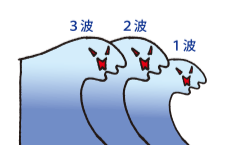
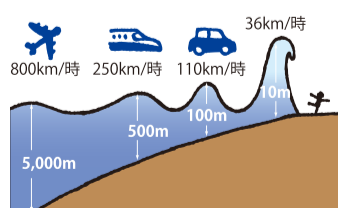
種類	数値での発表 (津波の高さ予想区分)	巨大地震の場合の発表 マグニチュード8を超える巨大地震の場合	サイレン信号
大津波警報	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	ウ〜 約3秒
	10m (5m<予想高さ≤10m)		
	5m (3m<予想高さ≤5m)		
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	ウ〜 約5秒
津波注意報	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	—	ウ〜 約10秒

## ■災害情報伝達経路



## ■津波の基礎知識

- 地震の後は必ず津波に注意しましょう。
- 地震を感じなくても津波が来る場合があります。津波警報が発表されたら、直ちに避難しましょう。(明治29年の三陸地震津波では、地震による揺れは弱かったにもかかわらず大津波が押し寄せました)
- 津波はとても速いです。水深5,000mでは時速約800km(ジェット機なみ)、水深500mでは時速約250km(新幹線なみ)の速さで伝わってきます。
- 津波は海岸に近づくとともに高さを増します。三陸海岸のような地形では急激に高くなります。どんなに高い堤防も越えてしまう可能性があります。
- 津波の前に潮が引くとは限りません。突然、大きな波が襲ってくる場合があります。
- 津波は、第1波、第2波、第3波...と繰り返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは避難先に留まりましょう。
- 津波は陸上では漂流物を巻き込みながら浸水するため、たとえ、浸水深が浅くても大変危険です。
- 津波後の浸水域では、津波火災が発生する場合があります。避難後は津波火災にも注意しましょう。



## ■東日本大震災の避難の教訓と避難の心得

- 想定外による逃げ遅れ**  
⇒ 大きな揺れ、津波警報・注意報が出たら迷わず「率先避難」「声かけ」
- 情報待ちによる逃げ遅れ**  
⇒ 情報収集に努めるが、なくても「率先避難」「声かけ」
- 避難行動要支援者と避難支援者の逃げ遅れ**  
⇒ 家族や近所で「支援ルール」を決めておく
- 道路渋滞による逃げ遅れ**  
⇒ 車避難は、高台等が遠い人、独力で避難できない人とその支援者のみ
- 貴重品を取りに・船を見に戻り逃げ遅れ**  
⇒ 非常持出しの準備、警報解除前に戻る人を皆で呼び止め

**凡例**

- 避難所 (標高m) ※1
- 緊急避難場所 (標高m) ※2
- 地域緊急避難場所 (標高m) ※3
- 要支援者施設 (標高m) ※4
- 避難要注意箇所
- 駐在所・派出所
- 病院

**【津波浸水域】**

- 東北地方太平洋沖地震津波浸水範囲
- 【背景とした地図】
- 災害復興計画基図(国土地理院震災直後(H23.5~9月)作成)

- 標高5m
- 標高10m
- 標高20m
- 地区境界線
- 避難経路

発行/平成27年6月1日  
気仙沼市総務部危機管理課  
TEL:0226-22-3402